

(上演台本)

満墨鳥王一座 第二回公演

キョウド町グロリーバリズム行進曲

作 大信ペリカン

登場人物

◇三人官女

ヒサゲ 旧キド村ご当地アイドル
サンポウ 旧ウド村ご当地アイドル
ナガエ 旧ヨウキ村ご当地アイドル

◇消えた三人官女を探す男たち

ウダイジン キョウド町アイドル振興公社契約社員
サダイジン キョウド町アイドル振興公社契約社員

◇その他左記にあるように、多くの人々が登場するが、それは右の五人の二人の二役で演じられる。

記者たち／村長／心無い記者1／心無い記者2／ニセ外人記者／ニセ通訳／ナガエのおともだち1／ナガエのおともだち2／ナガエのおともだち3／ナガエ父／ナガエ母／左方さん／養成所の先生／村長の謎の双子秘書兄／村長の謎の双子秘書弟／給食のおばさんA／給食のおばさんB／あやしい給食のおばさん／サンポウ夫／サンポウ父／サンポウ母／助役／上木戸さん／この舞台の演出家／新生キョウド町の誕生をうれしが町民1／新生キョウド町の誕生をうれしが町民2／新生キョウド町の誕生をうれしが町民3／新生キョウド町の誕生をうれしが町民4／医者／双子の寂しい熱帯魚売り姉／双子の寂しい熱帯魚売り妹／目撃者1／目撃者2／欲深いおばあちゃん

0 まえがき、そして三人官女のラストコンサート、二人のダイジンは彼女らを追いかける

これは少し先の未来をイメージした話であるが、それはまあよい。

「まあよい」というのは、戯曲は演劇を作る上での設計図や指示書としての機能を持つものであるから、この第一行を読んでしまった演出家や役者やスタッフの誰かが、ともすれば躍起になってその「少し先の未来」を具現化しようとし、ともすれば「銀色の服を衣裳としてはどうか」などと考えられては困るのでそう記したのであって、ではなぜそのような誤解を与えることをわざわざ書く必要があるのかと問われれば、この作品が「どこか架空の町」などでは決してなく、あくまでも「少し先の未来の話」でなくてはならぬのでわざわざ書いたのであり、それはこの作品を最後まで観通した観客に「ああこれは少し先の未来を表現したのであるな」と、何等の具象を経ずして感じていただきたいという思惑を、この如何ともしがたい思いを、この切なる願いを、作品に関わる者全てに胸に刻んでいただきたいと思記したのであるから、決して「少し先の未来」が作品にとって重要ではないという意ではないことを分かってくれたまえよ、役者諸君、裏方諸君。

キョウド町は、キド村、ウド村、ヨウキ村の三村が合併してできた新しい町である。それぞれの村があったのは今となってはもはや過去のことではあるのだが、ここに出てくる人々にとってそれが過去のこととして済まされたことはただの一度もないのであり、それがこの物語の複雑さを招いているのであるのだけれど、そんなことを言っている間にウダイジンとサダイジンが現れた。

ウダイジン わたしは、消えたアイドルを探す、今となっては町人のウダイジンです。
サダイジン わたしは、消えたアイドルを探す、かつての村人のサダイジンです。

さて、いつの間にかここはキョウド町ご当地アイドルグループ「三人官女」のラストコンサートが行われている会場の舞台袖である。
ヒサゲ、サンポウ、ナガエが現れ、円陣を組む。

ヒサゲ・・・お客さん入ってるね・・・。(キャッチフレーズ)いつもがんばるがんばり屋ヒサゲ、サンポウ 給食おばさんアイドルサンポウ、ナガエ ちよっぴりミステリアス、ナガエ サンポウ 三人合わせて、合併したら？
三人 三人官女でおじやります。エイ、エイ、オー、
ウダイジン ちよっと待ってください。大変です、結果が、結果が分かりました。
ヒサゲ・・・はじめよう。
ウダイジン・・・はい。
全員 ハッ！

彼らの演奏が始まる。

「キョウド町グローバリズム行進曲」

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノバイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

と、いうのは彼女らの持ち歌「キョウド町グローバリズム行進曲」の冒頭の部分である。
賑やかな歌い出しの後、いよいよ歌の一番が始まる。
がしかし、歌の直前で演奏はぱったりとストップした。

1 ドキドキ体質のヒサゲはある日、自らの人生の春を実感し、うさんくさい外人記者とその通訳の取材を受ける

ヒサゲが舞台中央に歩み出る。

ウダイジン 今から何年か前のある日のことである。彼女はその時、自らの人生の春を実感していた。未だ経
験したことのない胸の高まり。鼓動。

ヒサゲ 人生の春！

ウダイジン そいや！ ズバババー（と演技空間に役場を建て上げる）キド村で最も高い建築物、役場本庁舎は四階の最上階に位置するひときわ豪華なその部屋、村長室。ずらつと居並ぶ地方紙地方テレビ局の記者たち。

記者たちはパシヤパシヤとシャツターを切る。

村長が委嘱状を読み上げる。

村長 えー貴殿を当村のご当地アイドルにいー、委嘱ーいたします。（委嘱状を手渡す）

ヒサゲ （それを受け取り）人生の春！ 人生の春！

記者たち よっ！ がんばれよー！ しっかり！（と口々に）

ヒサゲ 人生の春！

ウダイジン 舞い上がった彼女の耳にはその時、自分の胸の鼓動のみが響き渡っていたので、

ヒサゲ 人生の春！ 人生の春！

心無い記者A （ナガエに）アイドルにしちやあ歳食ってますよね。

心無い記者B （サダイジンに）そんなにかわいくもないしね。

ウダイジン という記者たちの心無い声も、

村長 あなたのがんばりにーよって、この村がなお一層のー発展をー遂げることを、

ウダイジン という村長さんの長い挨拶も、

ヒサゲ 人生の春！

ウダイジン 何一つ聞こえてはいなかったのである。

ヒサゲ 人生の春！

ニセ外人記者がニセ通訳を引き連れて入ってくる。

村長や国内記者たちは動揺している。

ニセ外人記者 ボンジュール。

ナガエ （サンポウの言葉を訳し）こんにちは。

ウダイジン あっ、海外メディアだ！ 海外メディアまでやってきたぞ！ いやあ、遠いところ大変でしたね

え。

ニセ外人記者 (それには構わず、ヒサゲに外国式の挨拶をし、外国語で何かを話している。やがて日本的な

ヒサゲの胸元に外国的な注意が集中しそれを触りそうになる)

ウダイジン (ので) ちよつと、あれ? ちよつと、

ニセ外人記者 (ハッとして手を止め、ニセ通訳の方を見る)

ニセ通訳 (ので訳す) あなたの活躍は海外でも注目されています。

ヒサゲ 人生の春!

ニセ外人記者 (何かを長めに話すが、どうやらその内容は日本の牛井チェーンなか卯について述べているように聞こえる。キリのいいところで通訳を見る)

ニセ通訳 (ので訳す) あなたに会えてうれいす。

ウダイジン・・・今、随分「なか卯」のこと、

ニセ外人記者 (遮って、何かを長めに話す。「なか卯」のことを話しているようにしか聞こえない。キリの

いいところで通訳を見る)

ニセ通訳 (ので訳す) あなたの魅力は、・・・言葉に表せないほどだ。

ウダイジン いや、この人「なか卯」の話してるよね。

ニセ外人記者 (遮って何かを長めに話すが、これはもう絶対に「なか卯」について話している)

ウダイジン (サンポウの話聞きながら) 「紅しようが」、・・・「京風うどん」、・・・「こだわり、玉子、プ

リン」絶対そうだ!

ニセ通訳 (キリのいいところで) その活躍を一言で言うのは難しい。

ウダイジン 違う。君、違うよね。

ニセ外人記者 (目の前の空想の牛井に) ワオ!

ウダイジン (ニセ外人記者に) 偽者だろ。

ニセ通訳 ワオ。

ウダイジン (ニセ通訳に) お前も!

ニセ外人記者 (牛井がとてもおいしそうで) ヒュー!

ニセ通訳 ヒュー。

ニセ外人記者 (それを食べながら喋る)

ニセ通訳 キド、ウド、ヨウキの三村はそれぞれにアイドルがいて、

ヒサゲ ウド? ウドって言いました?

ニセ外人記者 (外国語で何か喋りっぱなしである)

ニセ通訳 ふっふっふっ、

ヒサゲ 何がおかしいんですか？

ニセ通訳 チマタではご当地アイドル激戦地帯と呼ばれていますが、・・・それについてどう思いますか？

ヒサゲ 負けたくないです。負けるのは絶対にいやです。勝つためだったら何だってします。わたしもつとつと、
つと、人生の春を謳歌したいんです。人生の春を！

ウダイジン もうめちやくちゃだ。ハッ！（掛け声）

再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

パリコト パナナデ フライ フライ フライ

2 幼い頃から少し変わったところのあるナガエが都会で通ったアイドル養成所は倒産し、地元では村長の謎の双子秘書が待ち構えていた

またまた歌は中断され、

そこはヨウキ村の名勝であるヨウキ湖。

ヨウキ村だけに、なんともいい陽気である。

サダイジン ヨウキ村は最後の古里、本当の日本を味わえる自然豊かな山間の村であります。なんととっても一番の見所はメダカやホタルにモリアオガエルも生息する美しいヨウキ湖であります。村民の憩いの場であるばかりか、古里の誇りともなっているものであります。涼しげな水音、セミの泣き声。夏盛りヨウキ村。時は今をさかのぼること十一年前。やがてこの村のご当地アイドルとして名をはせるナガエちゃん、この時まだ小学生、かわいいかわいい女の子、とはちよつと違って、

小学生のナガエが釣りをしている。

ナガエのおともだちがそれを見ている。

おともだち ナガエちやーん、あそびましょつ。

ナガエ・・・(無言で魚を釣り上げる)

おともだちA あ、つれた。

ナガエ (サダイジンに) うん。

おともだちB なに釣ったの？

ナガエ ブルーギル。

おともだちB へー、

おともだちA 焼いて食べよう。

おともだちC バカ。ブルーギルなんか食うかよ。

おともだちA なんで？

おともだちC スポーツフィッシング。釣りそのものを楽しむの。釣ったのはまた放流するって決まってるん

だよ。

おともだちA へー、そうなんだあ。

おともだちC キャッチアンドリリースっつーんだよ。

と、おともだちCが講釈をたれるなか、ナガエは小さなバケツに「リボンタンサン」をシュワシュワついでいる。

おともだちB (それを見て) なにそれ。

ナガエ 炭酸水。(ブルーギルをバケツに入れた)

おともだちB・・・うわ・・・魚死んだ！

おともだちA 死んだ！

ナガエ 死ぬでしょ、炭酸水だもん。

おともだちB えーなんで殺すの？ かわいそうだよお。

ナガエ (立ち上がり)・・・外来種だよ。死んで当然じゃない。(ウダイジンに) スポーツフィッシングじゃ

なくて湖の浄化だから、わたしのやってるのは。適当言わないでくれる？

おともだちC・・・はい。

おともだちはその場を去る。

サダイジン このようにナガエちゃん、少し変わった子供でありました。大きくなったらまともになるかと思
いもしたが、三つ子の魂しぶといしぶとい、心配したのはご両親、

ナガエは釣りを続ける。

居間でくつろぐナガエの父のところにナガエ母がやってくる。

ナガエ母 お父さん、あの子がまたブルーギル殺してたって、お隣の左方（ひだりかた）さんが。
ナガエ父 困った子だなあ、

釣りをするナガエの側に、左方さんが現れ、咳払いなどをして彼女にプレッシャーを与えてい
るが、ナガエは気に留めない。左方さんは「イマジン」を口ずさむ。

ナガエ母 左方さんラブアンドピースでしょう、もうわたしなんて答えたらいいか、
ナガエ父 よし、お父さんが少し話してみよう。おい、ナガエ・・・おい、

ナガエが釣りをやめ、両親のいる居間に現れる。

左方さんはナガエの跡をつけ、庭の影からそれを見ている。

ナガエ はいお父さん。

ナガエ父 お前どうして魚を殺すんだ。

ナガエ あらやだ、殺すのは外来種よ（と真っ直ぐな目でナガエ父を見る）

ナガエ父 ……そうか。

ナガエ 外来種はヨウキ湖にもともと住む生物に悪影響を及ぼすのよ。

ナガエ父 ……そうか。

ナガエ 外来種の脅威はね、お父さん。在来種を食べてしまう捕食だけではなく、エサを奪い合う競合、元来
は存在しなかった病気や寄生虫への感染、さらには近い種同士の交配、汚らわしいわね、交配だなん
て……。そんなの駆逐して当然でしょ。

ナガエ父 ……そうか。

ナガエ お母さんだってゴキブリ殺すじゃない。

ナガエ父 ……そうか。

ナガエ それにねお父さん。…わたし、生と死は地続きだと思うの。生っていつてもいやらしい意味じゃないよ。生き物はみな死ぬ。でも死んだからといって終わるわけじゃない。むしろ始まるの。死ぬことによつてあのブルーギルもどこか他の、あの子が本来生きるべき土地で生まれ変わることができると、そうわたし思うのよ。

ナガエ父 ……そうか。

ナガエ ブルーギルだって、なんの愛着も持てない所で生きるより、いつそ死んで生まれ変わった方がよっぽど幸せだと思わない？

ナガエ父 そうだな。

ナガエ母 お父さん！

ナガエ母はナガエ父を責め立てる。

サダイジン (ヒサゲに) お母さんも大変ですな。

ナガエ母 あの子がもう少し社会的になってくれたらと思うんです。

ナガエ父 明るくて活発な子になってほしいよなあ。

ナガエ母 (ナガエ父に) もうっ…。そうだ、アイドルの養成所に通わせましょう。

ナガエ父 そりゃいいな。

ナガエ母はナガエ父を突き飛ばし、

サダイジン と、安易に考えて、母子(ははこ)二人で都会へ移り住み、アイドル養成所に通わせることにしました。ところがこの養成所、

養成所の先生 ハイイハイイ。オリジンステップ。ワンエンツーエンスリーエンフォー！ ワンエンツーエンスリーエンフォー！(奇妙なオリジナルステップ)

ナガエ (それを真似て) ワンエンツーエンスリーエンフォー、ワンエンツーエンスリーエンフォー、(繰り返す)

サダイジン アイドルの激戦は生き馬の目を抜く仁義なき戦い。裏切られ、騙され、捨てられ敗れに破れ、そもそも才能がなかった養成所の経営も火の車。もうどこをどうすればなにがどうなるのかも分からず、ここで何とか大逆転をと大きな賭けに出してしまい、

ナガエ 趣味は、超常現象のまとめサイトを作ることです。

養成所の先生 いいね！

サダイジン ナガエを一押しアイドルとしてレコードデビューさせることに決めたのですが、

ナガエ (歌う) この世に 金のなる木が あったならー

サダイジン 当然こんな歌が売れるはずもなく、養成所は見事倒産、

養成所の先生 ガラガラガラ (と崩れ落ちる)

旅行かばんを持ったナガエとナガエ母、そしてナガエ父の三人、

ナガエ父・母 ポツネン (と立っている)

サダイジン 母は地元に戻ってきたのです。

ナガエ あ、セイタカアワダチソウ、ずぼっ、ずぼっ、(と抜く)

サダイジン いやいやいやー、

ナガエ母 誰？

サダイジン お母さん、大変でしたね。

ナガエ母 何一つ、うまくいきません。

サダイジン と、思ったのですが捨てる神あれば拾う神もあり、

村長の謎の双子秘書が近寄り、

謎の双子秘書 (二人で) はじめまして、村長の謎の双子秘書の、

謎の双子秘書兄 兄です。

謎の双子秘書弟 弟です。

謎の双子秘書 ナガエさん、君都会でアイドルだったってね、

ナガエ はい、まあ。

謎の双子秘書 今度ヨウキ村でもご当地アイドルを作ることになったんだよ。

ナガエ はい。

謎の双子秘書 経験者ということで、セーの、ぜひ君を指名したい！（最後までバラバラになってしまい）あーせっかくセーのって言ったのにい（と口々に）

ヒサゲ はい、よろこんで！

サダイジン と、めでたくナガエはご当地アイドルとなったのでした。ハッ！（掛け声）

再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ

パニコト パナナデ フライ フライ フライ

3 サンポウは食中毒の予防に熱心な給食おばさんであり、胸に野心を秘めたウド村のご当地アイドルでもある

またまた歌は中断され、

ウダイジン 少し時間は経過して、ある日のウド村ウド村立ウド中学校給食室では、

サンポウ（リズムに乗って）つけない、ふやさない、やっつける。つけない、ふやさない、やっつける。手洗い、乾燥、加熱処理。手洗い、乾燥、加熱処理。洗ったつもり、拭いたつもり、焼いたつもりで調理して、つもりつもりが、つもりつもりで、油断やスキで食中毒。つけない、ふやさない、やっつける・・・

給食のおばさんたちは手を洗っている。

ウダイジン 食中毒の予防に熱心だった。

サンポウ みなさん、バイ菌はちよつとした油断にはびこりますからね。さあ、もう一度隣の人と確認しあつてね。つけない、ふやさない、やっつける（手をたたきながら繰り返し）

ウダイジン 彼女がこれほどまでに熱心なのは訳がある。ウド中学校では今月に入り三回も食中毒が発生していたのだ。今月と言っても今日はまだ七日であり、しかも二日三日は土曜日曜であったので、これは

もう凄い発生度合いであることは間違いない。・・・原因はいつか考えられたが、

三人は調理中である。

給食のおばさんA トントントントン、(野菜を切る)

給食のおばさんB ちよつと後ろ通りますよー、ドン(給食のおばさんAにあたる)

給食のおばさんA ああ！(と切っていた野菜を床に落としてしまう)

あやしい給食のおばさん さん、にい、いーち、

給食のおばさんA (その間に落とした野菜を拾い上げ)セーフ、

サンポウ ちよつと！

ウダイジン 大らかな村の気風から、衛生観念が多少欠如していたこと、

あやしい給食のおばさん・・・(おばさんAに耳打ちし、二人で笑う)

サンポウ ちよつと、なによ！

ウダイジン 調理員のコミュニケーションに難があつたこと、

給食のおばさんB (サダイジンに)気にしない気にしない、

あやしい給食のおばさん 食べたって死にやしないわよ。

給食のおばさんA あれ？ 奥さん、今の顔アレに似てない？ ほら、キド村の、ご当地アイドルの・・・、

なんだっけ、あのー、ほら、マジメな、女の子いるでしょ、マジメな、

ナガエ ヒサゲちゃん。

給食のおばさんA そうそう、

あやしい給食のおばさん やだー、似てないわよー。

給食のおばさんA あの子かわいいわよねー、うちの村のアイドルはおばさんだけど・・・

あやしい給食のおばさん あ、アイドルとといえばー(みんなを集めてこそこそ話)

三人はサンポウを見ながらこそこそ話す。

ウダイジン 調理リーダーの彼女が、ウド村のご当地アイドル、しかも史上初の給食のおばさんアイドルとし

て抜擢されたため、以前ほど管理が行き届かなくなったこと、そしてそれに対する嫉妬から給食室のチームワークが乱れたこと、これらが原因として考えられるのである。

思いが高まって、サンポウは給食室を飛び出る。

三人 やーねー。

ウダイジン しかしながら、彼女はその垂れかかった胸に熱い野心を秘めた女なのであった。

サンポウ わたし、・・・わたし・・・、

茶の間である。

サンポウ、サンポウ夫、サンポウ父、サンポウ母が食卓を囲んでいる。

サンポウ ねえあなた、

サンポウ夫 どうかしたのかい？

サンポウ 今度、うちの村でもご当地アイドルを発掘するそうじゃないの。

サンポウ父 おっ、それはナガゾウ君の課が担当している事業だな。

サンポウ夫 はい部長、

サンポウ父 おや、ここは役所じゃありませんよ（笑う）

サンポウ夫 つい癖で・・・、

サンポウ父 仕事人間だ、ナガゾウ君は。

サンポウ母 仕事人間だ。

サンポウ 仕事人間だ。

三人 あははは、

サンポウ母 おほほほ、お茶のおかわりいかが？

サンポウ夫 あ、すみません。

サンポウ あたし、アイドルとか興味あるなあ。

サンポウ夫 え！

サンポウ母 そういえばあなた昔から好きだったわよね。

サンポウ 歌だつてうまいのよ。（吐息でネット」を歌う）

サンポウ父 うまいうまい。最高だ、なあ母さん。

サンポウ母 かわいいわあ。

サンボウ やめてよパパ、ママったら。
サンボウ父 ……いいんじゃないか？
サンボウ夫 え？

サンボウ父 給食の調理員のアイドルなんて、ほかにないだろう？
サンボウ母 わたしも教育長として鼻が高いわ。

サンボウ父 父さんだって地域振興部長として鼻が高いさ。

サンボウ母 わたしのお兄さんも、村会議員として鼻が高いと言いわ、きつと。

サンボウ父 父さんの弟だって、消防団長として鼻が高いと言うさ、きつと。

サンボウ父・母 いいんじゃないか？ ナガゾウ君！

サンボウ夫 ……はあ。

サンボウ、サンボウ父、サンボウ母の三人は架空の盆に乗って退場する。

サンボウ母 パパ役、パパ。

サンボウ父 ママ役、ママ。

サンボウ わたし役、わたし。

ウダイジン この芝居めいたやりとりを経て、見事彼女はウド村ご当地アイドルにねじ込まれたのであった。

サンボウ わたし、きょうから普通じゃないおばさんになります！

ウダイジン がんばってね。ハッ！

再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ

パリコト パナナデ フライ フライ フライ

4 どんどん髪を切る上木戸さんにヒサゲはアイドルになれと言われ、さらに口説かれそうになる

またまた歌は中断され、

キド町役場。廊下をヒサゲが元気よく歩いている。その先には、村長と助役がなにやら話している。

サダイジン　ここキド村のご当地アイドルヒサゲには、ぜひとも紹介しておきたいエピソードがある。

ヒサゲ　村長さんこんにちわー。お膝の手術はうまくいきましたか？

村長　誰かね？

助役　出入りの保険屋さんですよ、村長。

ヒサゲ　助役さん、奥さんの発表会うまくいきました？

ヒサゲは役場をぐるぐる歩きながら出会う人ひとりひとりに声をかける。

ヒサゲ　あら大木戸さん、じいちゃん退院したんですって？　下木戸さん、もうきゅうりでた？　上木戸さん、

やだ髪切ってるー。ハワイどうでした？　もう柿になりました？　え、お墓参りいかなかったんですか？

やだ髪切ってるー。そういえば初雪ですねー。やだー髪きってるー。春が待ち遠しいですね。やだー髪

きってるー。(その場でもだえる)

サダイジン　ヒサゲは当初、役場に入入りしていた生保レディーであった。

ヒサゲ　アメ、配ります。

サダイジン　配属二日目から全職員の名前をすべて暗記し、彼らの家族関係や趣味、政治経済、スポーツ、病

気と彼女の会話は幅広く、職員たちは驚いたものだった。

ヒサゲ　やだー髪きってるー。やだー髪切ってる。

サダイジン　さてこの、ヒサゲが徹底マークしており、着々と髪を切り続けている男。ぜひとも紹介したいと

いうエピソードは、ヒサゲとこの男との間にまつわるものである。

ヒサゲと上木戸さんが向かい合っている。

ヒサゲ　どんどん髪切るんですね。

上木戸さん　気分転換でね。

ヒサゲ　あんなに長かったのに、もう丸刈り。どれも似合ってますけど。

上木戸さん　気づいてくれたんだ。ありがとう。

ヒサゲ ……あの、

上木戸さん あ、保険見直したいんだけど。

ヒサゲ あ、はい。

上木戸さん 今度結婚するからさ。

ヒサゲ え、…いつですか？

上木戸さん 春になったら。

ヒサゲ ……そうなんだ。

上木戸さん ……ヒサゲちゃん。キミ、ご当地アイドルに応募してみたらいいよ。

ヒサゲ え…、なんで？

上木戸さん ねえ、ヒサゲちゃん、ご当地アイドルに応募しなって…俺、ヒサゲちゃんがご当地アイドルになればいいと思う。

ヒサゲ ……。

上木戸さん 俺、

ヒサゲ ……ハッ！（と掛け声）

ヒサゲの掛け声により再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

ヒサゲと上木戸さん。

ヒサゲ ……上木戸さん、髪伸びましたね。

上木戸さん うん。伸ばしてるんだ。

ヒサゲ 奥さんの好みだったりして。

上木戸さん ……。

ヒサゲ あの、受かりました。ご当地アイドル。

上木戸さん え、すごいじゃない。頑張ってるね。ウドやヨウキに負けちゃダメだよ。

ヒサゲ はい。

上木戸さん 応援するからね。・・・あの、俺さ、・・・えっと、・・・応援してるから。いや、そうじゃなくて、ヒサゲちゃん、
ヒサゲ ハッ！（と掛け声）

ヒサゲの掛け声により再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

上木戸さん ヒサゲちゃん、あのさ、
ヒサゲ ハッ！（と掛け声）

ヒサゲの掛け声により再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

上木戸さん ヒサゲちゃん、
ヒサゲ ハッ！（と掛け声）

ヒサゲの掛け声により再び歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

5 ご当地アイドルたちはそれぞれの村でローカルな大活躍をするのだが、やっと慣れてきたところに忘れていた合併の時が訪れる

またまた歌は中断され、

ウダイジン こうして、ウド村の普通じゃないおばさんアイドルサンポウ、ヨウキ村の外来種撲滅アイドルナガエ、キド村の頑張るアイドルヒサゲ、三人のご当地アイドルが出揃い、三村アイドル三つ巴状態が完成したのである。

サダイジン 彼女らの仕事は、地元インターネット放送局のレポーター、
サンポウ たたいて、値切って、じゃんけんばい。あそれ、じゃんけん、じゃんけん、じゃんけんばい。あ
こでしょ。あいこでしょ、あいこでしょ・・・(繰り返し)

サダイジン 各地での農産品アピールイベント、
ナガエ さやえんどう争奪、じゃんけんばい、あいこでしょ・・・(繰り返し)

サダイジン 商店街イベント、
ヒサゲ キド和菓子屋名物、かしわもちプレゼントじゃんけん大会、はいじゃんけんばい。あいこでしょ、あ
いこでしょ、あいこでしょ、

サンポウ、ナガエ、ヒサゲはこれまで「あいこでしょ」を繰り返していたが、それぞれじゃん
けんに決着がいたらしく、

サンポウ (同時に) お刺身盛り合わせ三百円、
ナガエ (同時に) そちらの帽子の彼女、見事さやえんどう獲得！、
ヒサゲ (同時に) 川木戸さん、かしわもちゲット！、

三人は盛り上がる。

サダイジン・ウダイジン ご当地アイドル、進めー！

サダイジン 一日文化会館長、

ヒサゲ お芝居ドキドキドキドキドキ・・・(緊張してガチガチである)、キド文化。

サダイジン 一日消防所長、

サンポウ (恥ずかしくてもじもじしている)

ウダイジン 一日商工会長、

ナガエ まじめなヨウキの職人魂、

ウダイジン 一日農協組合長、

サンポウ 安心、安全、うまい、(恥じらいを克服)

サダイジン 一日連合地方委員長、

ナガエ 賃上げ、つていやらしい意味ですか？

ウダイジン 一日駐在所長、

ヒサゲ 二人乗りダメ、絶対。(緊張を克服)

サダイジン 一日婦人会長、

サンポウ 一婦人、二鷹、三なすび、四はサンポウでお願いします。

ウダイジン 一日森林管理署長、

ナガエ (釣りをしているが両ダイジンに無理矢理連れられ) 村菜えて山河あり、

サダイジン 一日観光協会長、

ヒサゲ キドでドキドキしてみたら？

ウダイジン 一日保育園長、

サンポウ 子供は村の宝だから、

サダイジン 一日クリーン作戦隊長、

ナガエ 村はゴミ箱じゃありません、

ウダイジン 一日キド駅長、

ヒサゲ たまに來る電車に乗ろう、

サダイジン 一日お花見パトロール、

サンポウ 一気飲みしたら逮捕だよん、

ウダイジン 一日郵便局長、

ナガエ わたし配ってます、

ヒサゲ わたし輝いてます。

ヒサゲ・サンポウ わたし輝いてます。

ヒサゲ・サンポウ・ナガエ わたし輝いてます。

アイドルたち わたし輝いてます。わたし輝いてます。わたし輝いてます……(繰り返す)

ウダイジン しかし！三人の幸福の絶頂はある日、冷や水をぶっ掛けられることになる。

サダイジン それはまるで、ひたひたと忍び寄る魔物のように、

ウダイジン 誰にも意識されず、

サダイジン 誰にも忘れかけられた、出来事であった。

アイドル三人 ……え？

サダイジン・ウダイジン 三つの村は合併します！

アイドル三人 (あからさまに落胆して) えー…、

アイドルたちはがっかりして座り込んでしまう。
もしかすると役者が体力的に疲れたのかもしれない。

6 劇の後半に向けて登場人物たちは堂々と休憩をする

ウダイジン さ、じゃあちよつと休憩しますかね。

彼らはその場に腰を下ろす。

彼らが休憩するなか、ゲストがお茶を運んできてくれる。

ウダイジン いやいや、ナガエさんどうですか。

ナガエ なにがですか？

ウダイジン いやいよ後半という感じですが。

ナガエ ……後半？

ウダイジン それ聞いちゃダメか。えっと、こっちの方はどうですかね。

ナガエ こっちの方と言うと、いやらしい意味ですか？

ウダイジン 違いますよ、合併。合併は忘れた頃にやってくる。完全に忘れてたでしょ？

ナガエ いえ。なんとなくそろそろかなあとは思ってましたけど。

ウダイジン 感想は？

ナガエ 複雑です。

ウダイジン 複雑。

ナガエ しかしながら、大きな問題を解決するには必要かもしれないですね。

ウダイジン ……ほう。

ナガエ 目的のための手段の一つとして、捕らえなきゃいけないのかなと。

ウダイジン まあお隣同士というのは往々にして仲が悪いものですからね。

サダイジン サンボウさんなんかどうですか、びつくりしました？

サンボウ びつくり、もう、なんか毎日バタバタバタバタしちゃって、なんだかねえ。

サダイジン 忙しかったですもんね。

サンボウ あたしほらスポーツがほらダメでしょう、ほらもう、ちょっとしたことですぐ息、もうハアハア上

がっちゃって、ダンス、慣れないし、あたしみじん切りは何時間でも平気なの、給食おばさんだから、

誰がおばさんよ（笑う）、トントントントンって、流れるよう、あたしもう包丁なんかね、軽く握っちゃ

やって軽く、余計な力一切なし、これ大事なことからね、トントントントン、そしたらシュッ（包

丁が飛んでいってしまい、これから自分が話す内容に笑ってしまおう）、笑っちゃうの、一回、ユッコち

やんの方飛んでっちゃって、その時のユッコちゃんの顔（その顔を真似て、そして笑う）、ごめん、

って、そしたら、ちよつと、やめてよ、つてユッコちゃん、もう、あたしこんな（謝るさま）なっちゃ

って、もう、ユッコちゃん、傑作・・・はあ（笑いが収まり）、まあねそれくらいこう自然体？ でも

ダンス？ 右行つて左行つて、体ガツチガチ、ダンスやめてみじん切りしていいですかあ？ ホントこ

こまで出かかったわよ、でもそれ飲み込んでかじりついたわね、もうかじりついて、かじりついて、つ

いていくのがやつと、やつと、あー、もう、つかれた、お茶いただきます。

サダイジン なるほど、

サンボウ（遮つて）でもね、あたしすごいイヤだつて思ったのはね、振り付けが覚えられないことかなあ、

振り付けあるのって思ったの、あたし、なんか、それだけはもうなんだか、もう、イヤだなあつてね、

もうイヤだったのよ、これ麦茶？

ウダイジン ヒサゲさんは分かっちゃいました？ 合併のこと

ヒサゲ 毎日精一杯でそれどころじゃ。

ウダイジン 頑張り屋さんですねー。

ヒサゲ ありがとうございます。

ウダイジン 質問なんですけど、どうしてヒサゲさんはそんなに頑張るんでしょう。

ヒサゲ えっ・・・

ウダイジン あれ、どうかしました？

ヒサゲ わたし、人に見られるのとか初めてで、それがすぐくうれいって言うか、なんかとても幸せだなあ

つて思うんです。あと、頑張ってるのを見せたい人がいて、

ウダイジン はあ、はあなるほど。じゃあウドやヨウキと合併することについては？

ヒサゲ 裏切られたって感じですよ。

ウダイジン え？

ヒサゲ キド村の名前の由来って知ってます？

ウダイジン あ、知りません。

ヒサゲ キド村開拓の立役者、木戸平八郎の名前から取ったんです。それが、キョウド町とかいう名前になっちゃって、

ウダイジン でもキモドも入ってますよ。

ヒサゲ ウドと混じっちゃってるでしょ。わたし合併して何がイヤってウドと一緒にすることなんです。

ウド村はね、今でこそ三つの村の中心みたいな顔して威張ってますけどね、もともとはキドが出来た後によその土地から入ってきた人の集まりなんです。よそ者なんです。ずっと昔から暮らしてるみたいな顔してるけど。

ウダイジン それは知りませんでした。

ヒサゲ キドの方がよっぽど歴史は古いんです。

ウダイジン ウド村に人が集まってきたのはいつくらいですか。

ヒサゲ 明治時代。

ウダイジン ……もういいんじゃないですかね、ずっと昔から暮らしてるって言っても。

ヒサゲ ウドの人たちはね、キドの村人を追い出していい土地に住んだんです。村を追われたキド村の人たちは、しかたなくやせた土地で生きるしかなかったんです。そんなウドとね、合併しろだなんてね、はっきり言って無茶苦茶です。キョウド町？ 変な名前。

ウダイジン はあ……というわけでそろそろ休憩終わりですが、まあこの様な状態ですから、

サダイジン 彼女ら、そしてわたし達とのファーストコンタクトは最悪でした。

ウダイジン こんな感じ、

7 そしてアイドルグループは統合されたが三人の雰囲気は最悪で、ナガエがなんだかよくわからない説得をするのだが、やっぱりなんだかわからない

そのままそこは新生キョウド町文化会館のリハーサル室。

ヒサゲ、ナガエ、サンボウの三人が黙りこくっている。その傍らにサダイジンとウダイジン。

サ・ウダイジン はじめまして、今日からみなさんのお世話をすることになりました。

サダイジン サダイジンです。

ウダイジン ウダイジンです。二人合わせて、

サ・ウダイジン サダイジンアンドウダイジンです。ハイッ♪そのままだなあー。

ウダイジン (三人が冷ややかにしているの) あれ？

サダイジン えっと、みなさんのグループ名が決まりました。

ウダイジン 何だと思えますか？ サンポウさん、わかります？

サンポウ さあ、ちよつと、よく・・・。

サダイジン おしい！ じゃあナガエさんは、(審ろうとしたら背を向けられ)・・・うん。だいぶ近づいてきた。

ヒサゲ えっと、・・・KUD3とか？

ウダイジン ああ、もうほとんど当たり。

サダイジン 正解は、

ウダイジン 三人官女。

サンポウ なんなの、それは。

ウダイジン 町役場直営のアイドルグループだから三人官女。

サダイジン おしゃれでしょ？

サンポウ へんなの。

ナガエ (手を挙げて) はい。

サダイジン どうぞ。

ナガエ 二人は双子ですか？

サ・ウダイジン え。はい、そうです。

ウダイジン・・・それがなにか？

ナガエ 聞いただけです。用事が済んだら帰ってもいいですか？

サダイジン 帰る？

ナガエ ブルーギルを輪廻させないと。

サダイジン 輪廻？

ウダイジン リンネの日記？

ナガエ 生き物はみな、生きるべき場所を持っている。

ウダイジン はあ、

ナガエ この間読んだ本にも書いてありました。

サンボウ あの、わたしもそろそろ給食の、

サダイジン その必要はありません。

ウダイジン みなさんは今日からアイドル一本。

サンボウ でも、

ウダイジン 給食のおばさんは引退です。さあおたまを給食室の床に置いて、ステージにおじゃれ、ささおじやれ。

サダイジン 人はみな、生きるべき場所を持っている。(ナガエに) そうですね？

ナガエ 人じゃないよ、生き物。

サダイジン はあ、

ウダイジン それに給食のおばさん制度は近く廃止されますし、

サンボウ どうして。

ウダイジン アウトソーシング。これからは派遣の人たちが作ります。

サンボウ え。

サダイジン かく言う僕らもアウトソーシング。キョウド町の誕生とともに役場から自主退社させられて、今の職場に飛ばされました。

ウダイジン 申し遅れました。(名刺を出して) キョウド町アイドル振興公社のウダイジンです。

サダイジン (名刺を出して) 同じくサダイジンです。二年間の契約社員です。

ウダイジン 一生安泰の役場職員のはずが。ガラガラガラ(崩れ落ちる)

サダイジン でもキミ、刺青入れてたよね。

ウダイジン (刺青を見せながら) 若気の至りです。合併後はなにかとシビアになりますから、みんなで頑張

っていきましようね。

ヒサゲ (手を挙げて) はい。

サダイジン どうぞ。

ヒサゲ リーダーは誰ですか？

ウダイジン ああ、そうそう。えっとえっと、我が三人官女のリーダーは、

サダイジン (ドラムロールの音) ドコドコドコドコ・・・、ドン。

ウダイジン サンポウさんです。

ヒサゲ 人生の春！（当然自分だろうと思って舞い上がるが）え？

サンポウ やだー、びっくり。

サダイジン 頑張ってくださいよ。

ヒサゲ どうしてですか？ 何でこの人がリーダーなんですか？

ウダイジン え、えっとそれは、

サダイジン サンポウさんの実績といいますが、

ウダイジン あっけらかんとしたお婆さんアイドルのキャラクターが評判よくて。

ヒサゲ お婆さん・・・、

サダイジン 意外性で、ほら。

ヒサゲ 納得できないんですけど、（ナガエに）ねえ。

ナガエ 興味ありません。

ヒサゲ・・・なにそれ。

ナガエ 興味ないだけです。

ヒサゲ・・・あたし、降ります、五人囃子。

ウダイジン 三人官女。

サダイジン （アイドルを数えて）一、二、三人官女。

ウダイジン 五人もいません。

ヒサゲ 降ります！

サダイジン まあまあ。

サンポウ よろしいんじゃないですか？ やる気ない方はやめてもらっても。邪魔になるだけですから。

ヒサゲ 邪魔？

サンポウ それともアレ？ ゴネ得狙ってる？

ヒサゲ 狙ってないし。

サンポウ 狙ってるじゃない。

ヒサゲ 黙ってください・・・コネお婆さん。

サンポウ コネお婆さん？

ヒサゲ 給食室帰れ。

サンポウ ひどい侮辱！

ウダイジン あーあーもめないで、

ヒサゲとサンポウは口々に相手をののしりあう。

サ・ウダイジン (それを止めようと) ハッ! (だが止まらず) ハッ!

ウダイジン とわたし達が困つてるところに、

ナガエ いい加減にしなさい!

ヒサゲ・サンポウ (口論をやめて) え?

サ・ウダイジン え?

ナガエ 赤壁の戦いにおいて、大軍を率いた曹操はなぜ孫権に敗れることになったのでしょうか。

サンポウ ……え、なにがななにに敗れるつて?

ナガエ 曹操が孫権にです。

サンポウ ……三国志の話?

ナガエ はい。

サンポウ アレでしょ? 賢い人いたから。うちわ持った。

ナガエ 劉備軍と同盟を結んだからです。劉備軍には諸葛亮がいました。赤壁の戦い、長篠の戦い、第二次世界大戦、古来より戦いは連合軍の勝利と相場が決まっているんです。

サンポウ そう。

ナガエ わたしはヨウキが好きです。でもあんな小さな村に何ができますか? 何もできません。何かできま

すか? 何もできないんです。

サンポウ そう。

ナガエ スケールメリットという言葉があります。

ヒサゲ え。

ナガエ 大は小を兼ねます。

サンポウ そうね。

ナガエ より大きな目的を達成するため、わたし達は一つにまとまるべきです。

ヒサゲ え、どうして、

ナガエ (遮って) あなたの敵はわたしの敵、

サンポウ 敵?

ナガエ わたしの敵はあなたの敵。

ヒサゲ はあ。

ナガエ 一人はみんなの敵を駆逐するために、
サンポウ そう？

ナガエ みんなは一人の敵を駆逐するために、

ヒサゲ 駆逐、

ナガエ 力を合わせましょう。(手を差し出す)

ヒサゲ・サンポウ (手を出しかけるが) 無理でしょ！

サ・ウダイジン あーもう。 ハッ！

歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

8 ドキドキ体質のヒサゲは過労で入院し、上木戸さんは街角で寂しい熱帯魚売りから買ったガンバルフィッシュをプレゼントする

またまた歌は中断され、

サダイジン こうして、古里にそれぞれこだわりを持った三人は、まったく一体感を作れないまま、一つのアイドルグループとして活動をはじめることになった。新生キョウド町の誕生に沸く町民。町の始めのうれしさを、祝う今日こそ楽しけれ。

町民たちがうれしがっている。

うれしがる町民1 隣村の図書館にも行けるぞー。
うれしがる町民2 自分の住所に町がついて誇らしいぞー。

うれしがる町民3・4（何かを言おうとするが特に思いつかず）ばんざーい。
サダイジン 三人官女の活動も本格始動。PR写真の撮影に広報キャンペーン、新曲の決定。

歌が始まるが明らかにぎこちない三人。

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

キョウドが榮えて いいですね 響け槌音 ものづくり
八百屋 肉屋の 大通り 町人の声はハハ ワハハ
合併 合併でグローバル みんなでつなぐよキョウドの輪
おおきくなるって いいですね

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

キョウドは自然も いいですね 田んぼ畑も山も川も
町の名産 芋と桃 食べるものみなナチュラルボーン
合併 合併でグローバル みんなで作るよキョウド町
あたらしくなるって いいですね

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

歌が終わるなりバラバラになる三人。

サダイジン 相変わらず彼女らの仲は険悪だったが、忙しさがそれを表面化させなかった・・・、そして事件は突然訪れた。時は新曲のレコーディング前夜、所は頑張るアイドルヒサゲの家。彼女は明日に備えて歌の練習に余念がなかった。

ヒサゲが自室で歌の練習をしている。

サダイジン いやいやいやー。

ヒサゲ 誰？

サダイジン やってますねー。

ヒサゲ やるべきことはやらないと気分が悪いので。

サダイジン ハッ！

ヒサゲ ♪キョウドが榮えていいですね (歌をやめて) でも何だろう？

サダイジン どうかしました？

ヒサゲ 胸がドキドキします。気のせいかな、ハッ！ ♪響け槌音 やっぱりおかしいな。

サダイジン 緊張してます？

ヒサゲ いや、もともとドキドキ体質なんですけど、今日のドキドキはもともとドキドキとは・・・。いつもより心臓が増えたみたいなの、時々まぢまぢなドキドキが・・・。心臓が飛び出してるみたいなの、(息が荒くなる)、やだ、苦しい、胸が、胸が・・・、

サダイジン ちよつと、大丈夫ですか？

ヒサゲ ぐぼ (倒れる)

サダイジン ちよつとー！

救急車のサイレンの音。

病院である。

サダイジン ヒサゲはすぐさま病院に運ばれ、そのまま帰らぬ人に、なることもなく入院することになった。医者 過労だね。

ヒサゲ・・・はあ。

医者 しばらく入院したらよくなるよ。

ヒサゲ 入院。

医者、心配いらないよ。

ヒサゲ・・・はい。

医者 とにかくゆっくり休んで、ね。

ヒサゲ はあ。

サダイジン 頑張るアイドルの頑張りが招いた事件であった。ところがそこに、

上木戸さん トントん、

サダイジン とノックの音、

ヒサゲ はい。どうぞ。

上木戸さん ヒサゲちゃん、大丈夫？

ヒサゲ 上木戸さん、・・・どうしたんですか？

上木戸さん 入院したって聞いたから。

ヒサゲ たぶん過労だつて、先生が。

上木戸さん 無理したんじゃないの？ ダメだよ体を大切にしないと。

ヒサゲ レコーディングに穴あけちゃつて、もうどうしたらいいか。

上木戸さん 変わらないなあヒサゲちゃんは。保険屋さんの頃からちつとも変わらない。みんなもつとうまくやつてるでしょ？

ヒサゲ でもわたし、・・・人一倍やらないと、

上木戸さん 自身持たなきゃ。ヒサゲちゃんにいいものあげるよ。

ヒサゲ いいもの？

上木戸さん ここに来る途中で買ってきたんだけどね、

双子の寂しい熱帯魚売りがいる。

双子の寂しい熱帯魚売り 寂しい熱帯魚く、寂しい熱帯魚はいらんかね

上木戸さん 熱帯魚？

双子の寂しい熱帯魚売り 熱帯魚買ってください。

上木戸さん いいけど、寂しいのはいらぬよ。

双子の寂しい熱帯魚売り 寂しくないのがありますよ。たとえばこういうの。せーの、（同時に上木戸さんの

左右の耳に耳打ち)

上木戸さん ばらばらで、なんだかもう、
双子の寂しい熱帯魚売り すみません。せーの (再び耳打ち)
上木戸さん いいねえ、一つください。
双子の寂しい熱帯魚売り 毎度あり。

双子の寂しい熱帯魚売りは去る。

上木戸さん (熱帯魚を取り出し) これ。

ヒサゲ うわあ、かわいい。

上木戸さん アマゾンの魚らしいんだけど、ガンバルフィッシュっていうんだって。

ヒサゲ ガンバルフィッシュ。ありがとうございます。

上木戸さん ヒサゲちゃんみたいでしょ？

ヒサゲ わたしこんなキラキラしてないです。

上木戸さん してる。

ヒサゲ してないです。

上木戸さん してるから。キラキラしてるよ。俺、キョウド町光TVでヒサゲちゃん見るたびそう思ってるよ。

ヒサゲちゃん、キラキラしてる。

ヒサゲ 上木戸さん、

二人の顔が近づく、

ヒサゲ (寸前で顔をそらし) 上木戸さん、わたしこれ大事に育てます、ガンバルフィッシュ。だから、応援
してくださいね。

上木戸さん ヒサゲちゃん。

ヒサゲ ハッ！

歌が始まる。

ラメチャンタラ ギッチョンチョンデ パイノパイノパイ
パニコト パナナデ フライ フライ フライ

9 ヒサゲは相変わらず入院中であるが、サンポウは怒り狂いナガエはガンバルフィッシュを輪廻させる

またまた歌は中断され、

ウダイジン こうしてヒサゲと上木戸さんが危ない恋を乗り越えていた頃、ウド村の普通じゃないおばさんア
イドルサンポウは、

サンポウの部屋。

サンポウ ダンスやめてみじん切りしていいですかあ！ ダンスやめてみじん切りしていいですかあ！
ウダイジン レッスンで飲み込んだ言葉を吐き出してた。

サンポウ ああ、ブサゲが倒れたお陰で振り付け変わって、もうわたし限界。ファンレターの返事も山ほどた
まってるし。あなた！

サンポウ夫 どうしたの、大きな声出して。

サンポウ あたしもうアイドルやめるから、やめるんだからね。

サンポウ夫 ええ？

サンポウ ダメならあのオリジンステップの先生を辞めさせて。ワンエンツーエンスリーエンフォー、あたし
イヤよあんなワンパターン。

サンポウ母 (入ってきて) どうしたの大きな声出して。

サンポウ あ、ママ。あたしアイドルはもうゴメンだわ。

サンポウ母 あらまあ穏やかじゃないわ。ワケを言ってごらんさい。

サンポウ イヤったらイヤ。(泣く)

サンポウ母 ちよっと、

ウダイジン 相も変わらず芝居じみた一家である。と、そこに駆け込んできたのはサンポウの父。

サンポウ父 (入ってきて) 大変だ、大変なこと聞いちゃった。

サンポウ母 どうしたのよあなた。

サンポウ父 今、海外メディアとその通訳から聞いたんだがな、・・・給食の食中毒な、あれ犯人がいたんだ。

サンポウ え？ 誰よ、誰なのよ。

サンポウ父 父さんも今聞いてびっくりしたんだが、

サンポウの記憶がよみがえる。

給食のおばさんA あれ？ 奥さん、今の顔あれに似てない？ ほら、キド村の、ご当地アイドルの・・・、

給食のおばさんB ヒサゲちゃん。

給食のおばさんA そうそう、

あやしい給食のおばさん やだー、似てないわよ！。

サンポウ夫・母・サンポウ え！

サンポウ父 体育倉庫の中に脱ぎ捨てられたヒサゲの舞台衣装が見つかったんだ。そのほか、いくつかの目撃証言もあった。

給食室。ヒサゲがバイ菌を混入している。

目撃者1 (目撃者2を呼びながら) ちょっと奥さん、

あやしい給食のおばさん ノロウイルス、カンピロバクター、サルモネラ(と菌をまいている)

目撃者1 見た。

目撃者2 見た。

サンポウ夫・母・サンポウ え！

サンポウ母 すぐ警察に突き出しましょう。

サンポウ父 ダメだ。

サンポウ母 どうしてよ。

サンポウ父 そんなことしたらマスコミの格好のネタだ。

サンポウ夫 いいじゃないですか、お義父さん。お縄になったほうがいいですよ、あんなブサイクは。

サンポウ母 そうよ、あんなブサイク。

サンポウ父・・・ブサイクか？

サンポウ夫 どうしてお義父さんが傷つくんですか？

サンポウ父 いやすまん。ただ、ヒサゲがつかまるとマスコミは面白おかしく騒ぎ立てる。当然メンバーであるサンポウのキャリアにも傷がつくんだぞ。

サンポウ母 でも、

サンポウ父 お前はそれでもいいのか・・・それに、スキャンダルを恐れるのは俺だけじゃないさ。町長が警察署長に手を回しこのことはすっかりもみ消されたそうだ・・・いいかサンポウ、この恨みは父さんがきつと晴らしてやる、

サンポウ母 ううん、お母さんが、

サンポウ夫 いや僕が、

サンポウ 黙って！・・・わたしやるわ。自分でやってやる。

サンポウ夫・父・母 でも、（口々に）

サンポウ 黙って！

ウダイジン と、怒り狂ったサンポウは、すぐさまわたしを呼びつけると、サンポウ 魯山人、魯山人！

ウダイジンが駆けつける。

ウダイジン はい。

サンポウ （ウダイジンにビンタをする）

ウダイジン いきなり殴りつけました・・・ウダイジンです。

サンポウ どっちでもいい。ブサゲの、ブサゲの病院に連れて行きなさい！

ウダイジン ヒサゲさんです。

サンポウ ブサゲでいいのよ、あんなやつ。（とさらに殴りかかる）

ウダイジン （サダイジンに）ひい、タッチタッチ、

ウダイジンはサダイジンとタッチする。

サダイジン と、ウダイジンが殴られている頃、ヒサゲの入院する病院に、

ヒサゲ (ガンバルフィッシュを見ながら) ガンバルフィッシュ、わたしも頑張るからね。

ヒサゲの病室。ヒサゲがベッドで横になっている。

ナガエ トントン、

サダイジン とノックの音、

ヒサゲ (起き上がり) はい。(ナガエが入ってきて) ナガエちゃん。

ナガエ・・・具合はどうですか？

ヒサゲ 来てくれたの？

ナガエ はい。

ヒサゲ (喜んで) えー・・・、

ナガエ・・・今、いやらしいことを考えましたか？

ヒサゲ 考えないよ・・・でも、

ナガエ なにか？

ヒサゲ いや、どうして来てくれたのかなって。

ナガエ・・・今、いやらしいことを考えましたか？

ヒサゲ 考えないから。そうじゃなくて・・・、ねえ、

ナガエ・・・言いませんでしたか？ 力を合わせるべきだって。

ヒサゲ でもわたし、全力で否定したのに・・・、

ナガエ まあ難しいこと考えずに、ゆっくり休んでください (と寝かせようとするが)

ヒサゲ (なぜかそれを拒み) あ、大丈夫。この方が楽だから。

ナガエ そうですか。

ヒサゲ ありがとう。

ナガエ はい。

ヒサゲ ちよっと待って、ケーキがあるんだ。(とベッドを離れる)

ナガエ いいですよ、そんな。

ヒサゲ 大丈夫、どうせ食べきれないし。

サダイジン ここで、とても残念なことが起きる。(ベッドサイドのガンバルフィッシュを指し) これ。ベッドサイドのこれをナガエが発見してしまったのである。

ナガエ あれ？ これ・・・、
サダイジン ナガエの心にさざなみが立った。派手派手しいこの色、けばいフォルム、そうこれはきつとアレだ。

ナガエ 外来種・・・、

サダイジン どうして上木戸さんは外来種を持ってきたのか。金魚ならよかったんだ。恨むべきはあの寂しい熱帯魚売りの双子だろうか・・・、アーメン。ナガエは手馴れた手つきでカバンをあさり、カバンから、

ナガエ (カバンに手を入れて) あれ？

サダイジン カバンから、

ナガエ やだ。

サダイジン カバンから？

ナガエ 忘れちゃった。

サダイジン 炭酸水を出すことはなかった。

ヒサゲ (戻ってきて) コーヒーとスプライトどっちがいい？

サダイジン ジーザス！ 紅茶を、紅茶をなぜ持ってこない？

ナガエ スプライト。

サダイジン ああ。

ヒサゲ はい。(スプライトを渡し、また戻る)

ナガエ しゅわしゅわしゅわ、

ナガエはスプライトをガンバルフィッシュの入った鉢に注ぐ。

サダイジン ああ。こうして、海を越えやってきたガンバルフィッシュ、非業の最期を遂げたのであった。な
んまいだー。

ヒサゲ (戻ってきて)・・・ねえ、ナガエちゃんは三人官女楽しい？ はい、もらい物だけど。

ナガエ ありがとうございます。普通です。

ヒサゲ 普通？

ナガエ 楽しいときもあれば、楽しくないときもあります。

ヒサゲ (突然) あれ？ もうスプライト飲んじゃったの？

ナガエ あ、いや、(彼女は別に隠すつもりはない)

ヒサゲ のど渴いてた？・・・楽しくないって、ヨウキ村のアイドルだったときも？

ナガエ まあ、そうです。

ヒサゲ 変わらない？

ナガエ 大きくは変わりませんね。

ヒサゲ ・・・すごいね。

ナガエ すごい？

ヒサゲ わたしはなんかダメなんだ。前はね、人生の春って感じがとても強くしたんだけど、なんか合併してからはそれがなんか、前ほど感じられないっていうか・・・、すごく輝いていたのにわたし、って思っちゃうんだよね。キラキラしてたのにわたし、って。

ナガエ してるじゃないですか。

ヒサゲ 今日はよく言われるなあ、

ナガエ 今、いやらしいことを考えましたか？

ヒサゲ 考えないから。

ナガエ ・・・どうしてできないって思うんですか？ キラキラ。

ヒサゲ だって、ウドが・・・、

ナガエ 昔から仲が悪いですからね、キドとウドは。

ヒサゲ ウドと一緒にいるなんて無理。

ナガエ どうしてですか？

ヒサゲ ウドはキドの土地を奪ったから。ウドさえいなければ、キドはもっと豊かにもなれたはずだから。ウドさえいなければ、わたしはもっとキラキラできたはずだから。ウドのおばさんよりもあたし、努力もしてるし苦勞もしてる。ウドのおばさんは、おばさんのクセに、コネのクセに、普通じゃないおばさんとか言っで、人気で、わたしのほうが頑張ってるのに。ウドはいつだってそう。わたしのキラキラを取り上げて三分の一にして、なにが三人官女よ。キドはいつだって損ばかり。

ナガエ わたしもヒサゲさんのキラキラを消しちゃいましたか？

ヒサゲ え？ そんなことないよ。ナガエちゃんはそんなことない。

ナガエ でもわたしも三人官女の一人です。

ヒサゲ ナガエちゃんは心配いらないうって。本当、大丈夫だから、ね？

ナガエ それはわたしを下に見てるからではありませんか？・・・ヒサゲさんは、キドが好きなんですか？
それとも自分が好きなんですか？

ヒサゲ え？

サダイジン しまった。・・・と振り返った彼女の眼に偶然飛び込んだのは、すでに事尽きてひっくり返った

やったガンバルフィッシュ。

ヒサゲ あれ？

サダイジン なんともなタイミングである。

ナガエ ・・・なんでもないです。

サダイジン 次に彼女はカラのスプライトを見て、はあはあなるほど、事のおおよそを理解したのであった。

ヒサゲ ナガエちゃん・・・。

ナガエ はい。

ヒサゲ (死んだガンバルフィッシュを指して) スプライト、これに入れた？

ナガエ え？

ヒサゲ 泡がしゅわしゅわしゅわしゅわ立って、甘い匂い。この子ひっくり返っちゃって、もう、ぶかーって。

ナガエ ええ、外来種は撲滅しないといけませんので。

ヒサゲ ちよつと！

ナガエ は？

ヒサゲ なんてことを、(ガンバルフィッシュを手に取り)

ナガエ わたし達は古里を守るために存在するわけで、

ヒサゲ これじゃ頑張れない、上木戸さん、

ナガエ これも活動の一環です。

ヒサゲ (ナガエの顔を張り) ふざけるな！・・・魚殺し。夢殺し。どうしてくれるのよ！

ナガエ ヒサゲさん・・・、(ヒサゲの顔を二度張る) 外来種の肩を持つなんて最低です。

ヒサゲ 叩かないでよ！

ナガエ さてはあんたも外来種か。

二人はもみ合う。

サダイジン そしてさらに事態はややこしく、

サンポウ トントン、

サダイジン とノックすることもなく、サンポウが病室に、

サンポウ ブサゲー！ あんた、よくもいけしやあしやあと、・・・どうしたの？

ウダイジン （追いかけてきて） ちよつとサンポウさん。

サンポウ まあいいわ、犯罪者。よくも給食に毒もつてくれたわね。

ヒサゲ 何言ってるの？

サンポウ ネットは上がってるのよ、天罰、天罰（と殴りかかる）

ヒサゲ ちよつといい加減にして。なんのことよ。

サンポウ 自分の胸に聞きなさい。（ナガエに） ちよつとどいて、

ナガエ ちよつと乱暴は、

サンポウ 乱暴はあんたでしょ、もう・・・、あんたなんか死んじやえ（とヒサゲに殴りかかる）

ナガエ 外来種。（とヒサゲに殴りかかる）

ヒサゲ 死にません。わたしは死にません。（三人のもみ合いはエスカレートする）

ウダイジン あー、もういい加減にして。

アイドル三人 あんたのせいでめちやくちやよ！

サダイジン 今だ。ハッ！

ヒサゲ ちよつとタイム。もうわたし、あんたらとはやってられない！ あれ？ ぐぼ（と倒れる）

全員 え？

倒れたヒサゲをそのままに、歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

パリコト パナナデ フライ フライ フライ

10 サダイジンはヒサゲが余命3ヶ月であることと教えられ、キョウド町の新市長選には急進派のバリバリさんが立候補し、ニセ外人記者はなか卯へ行きたい気持ちを募らせる

またまた歌は中断され、

舞台中央でヒサゲは倒れたままである。

ウダイジン こうして、入院中にもかかわらず大乱闘を繰り広げたヒサゲは、またもや倒れてしまったのであるが、

サンボウ (泣いている) あたしのせいだー。

ナガエ ちよつとサンボウさん落ち着いてください。

サンボウ あたしが死んじやえとか言ったからー。

ナガエ サンボウさんってば。(泣く)

サンボウ ああ。(泣くに泣く)

ウダイジン なぜ、このようにみんなが取り乱しているのか、その日のことを説明しておこう。ご承知のとおり、ヒサゲは病院でふたたび倒れ、サンボウとナガエの二人三人官女状態がしばらく続いた。そんなある日のことである。

サダイジン あー、忙しい忙しい。

サンボウ ねえ、もうキリがないからファンレターの返事出せないわよ。

ウダイジン サダイジン、まだそつちのイベント終わらないかなあ。

サダイジン もう終わりだけど終わらない。

ウダイジン 終わらない？

サダイジン 次は何だっけ？

ウダイジン 「キョウド町、新町長候補に聞く」光TVのインタビューもの。

サダイジン こないだ収録終わったじゃないか。

ウダイジン もう一人増えたんだよ、候補者が。元会計士のバリバリさん、何を思ったか都会から締め切りぎ

りぎりの立候補だって。

サダイジン 参ったなあ、今急に取材頼まれちゃって。

ウダイジン 無理だよ、バリバリ候補は金と時間にうるさいんだ。

サダイジン 海外からの取材だよ。

ウダイジン ダメダメ。キミが何とかしといてよ。悪いけど二人は連れてくよ。

サンボウ ねえ、ファンレター返事しないでしょ？(三人は去る)

サダイジン 外人なんだぞ。

ニセ外人記者とニセ通訳が現れる。

ニセ外人記者 ボンジュール！

ニセ通訳 こんにちは。

ウダイジン という訳で、急遽サダイジンが取材を対応することになったわけですが。

サダイジン ようこそこんな田舎まで、

ニセ外人記者 (サダイジンに外国式の挨拶をする)

サダイジン ・・・アイムフアイン、センキュー。

ウダイジン あまり見たことのない外国人にすっかり舞い上がってしまい、

ニセ外人記者 (日本の牛井チェンなか卯について話している)

ニセ通訳 あなたに会えてうれしいです。

ウダイジン デジャブか？

ニセ外人記者 (日本の牛井チェンなか卯について話す)

ニセ通訳 がんばるアイドルヒサゲさんが倒れたそうですが、

ウダイジン 「なか卯」の話でしょ？

サダイジン はい。突然のことで驚いています。

ニセ通訳 (ニセ外人記者に)「なか卯」の「なか」は創業者の中野さんに由来しています。

ニセ外人記者 (驚いて「なか卯」について話す)

ニセ通訳 (サダイジンに) わたしの情報によると、彼女の病気は非常に重いということですが、

ウダイジン え。(と内容に驚くが) ・ ・ ・でもそんなこと話してました？

サダイジン え。(と驚き) 過労と聞いてますが、

ニセ通訳 (ニセ外人記者に)「なか卯」の「卯」はうどんの「う」の当て字です。

ニセ外人記者 (驚いて「なか卯」について話す)

ニセ通訳 (サダイジンに) わたし達は、特殊なルートから、彼女についての重大な事実を知りました。

ニセ外人記者 (「なか卯」は「な」と「か」と「う」です)

ニセ通訳 それは、彼女の命が、あと三カ月であるということですか。

サダイジン (ニセ外人記者に) え、それは本当ですか。

ニセ通訳 (ニセ外人記者に) ニンテンドーのゲーム機は？

ニセ外人記者 ウィ。

ニセ通訳 残念ですが、信頼できる情報です。

サダイジン うそだ。

ニセ通訳 「なか卯」が昨日燃えました」

ニセ外人記者 （悲しんで泣く）

ニセ通訳 本当です。ではさようなら。

サダイジン あわわわ（と走り出す）

ウダイジン この取材のうさんくささにまったく気付くことができず、

ニセ外人記者とニセ通訳は去る。

サンボウとヒサゲが戻ってきて、

サンボウ 大変、大変・・・、

ウダイジン あらお疲れ様です、どうでしたかバリバリ候補。

サンボウ 怒られちゃったわよ、

ウダイジン 怒られた？

サンボウ とにかくもう大変、

ナガエ 僕が当選したら、君らのようなご当地アイドル事業は即刻廃止だよ、って言われちゃいました。

サンボウ カイカクカイカクうるさいの。信じられない。

ウダイジン ずいぶんやる気じゃない。

サンボウ 別に、そんな事ないけど。

ウダイジン とにかくサダイジンにもこのことを、

と話しているところにサダイジンがやってきて、

ウダイジン ああ、ちょうどよかった。

サダイジン みんな聞いて、大変だ、大変なんだ！・・・

全員 え！

全員泣き出し、

サンボウ あたしのせいだー。

ナガエ ちよつとサンポウさん落ち着いてください。

サンポウ あたしが死んじやえとか言ったからー。

ナガエ サンポウさんってば。(泣く)

サンポウ ああ。(さらに泣く)

ウダイジン と、こうなったのである。ハッ!

歌が始まる。悲しげに、

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

パリコト パナナデ フライ フライ フライ

う 11 二人はそれぞれ自分なりに反省をし、三人官女たちは伝統の選挙戦で急進派のバリバリさんに立ち向か

舞台中央に倒れたままのヒサゲをアイドルたちが取り囲んでいる。
病室。

上木戸さん ええ。保険の外交員だったヒサゲちゃんにアイドルになることを勧めたのは僕です。

サンポウ 上木戸さん……。そうだったんですか……。

サダイジン えー、こちら側の都合でベッドがありませんが、ここはヒサゲが入院する病院です。

上木戸さん 彼女はともがんばり屋でしてね……。うちの役場の担当になって、初めて事務所に来た日で

す。突然「もしも明日が……」を振り付きで歌いだしまして、

サンポウ 振り付きで?

上木戸さん ええ、みんなに顔を覚えてもらいたかったって……、

サンポウ そうですか……。振りも……、

上木戸さん 一生懸命、練習したんだと思います……。その時のヒサゲちゃんの様子がとても印象強くて、

ぜひともアイドルになつてもらいたくて、

ナガエ 「もしも明日が……」というの……。、「わらべ」の……、

上木戸さん ええ・・・、「わらべ」の・・・、

みんなため息をつく。

上木戸さん ヒサゲちゃんはご当地アイドルに選ばれたとき、本当にうれしそうでした。そしてアイドルになったヒサゲさんはとても輝いてました。もう、役場でアメを配ってはくれなくなりましたが、僕は、光TVでヒサゲちゃんを見るだけで、とても幸せでした。

サンポウ・・・あなた、この子のこと・・・、

上木戸さん・・・それは、

サンポウ 隠さないで。

上木戸さん 僕は、そんなこと言える立場じゃありません。

サンポウ ごめんなさい・・・。

上木戸さん 謝らないでください。

サンポウ わたし、ひどいこと言っちゃったんです。

上木戸さん ヒサゲちゃんはもともとからだが弱かったんです。それを僕がアイドルになれなんて・・・、

サンポウ 違う、わたしが！

ナガエ いいえ、わたしこそすみません。わたしがガンバルフィッシュを・・・、

上木戸さん いいえ。それは僕が外来種を・・・、あ、すみません。ちよつとトイレに（と席を立つ）

ウダイジンが病室に戻ってきて、

全員 あ、ウダイジン。

ウダイジン あれ？ 上木戸さんは？

サンポウ トイレに行ったわよ。

ウダイジン さつきからすれ違いだな。参ったよ。

サンポウ どう？ 町長選の動向は？

ウダイジン バリバリさんの勢いに怖気づいて現職が出馬取りやめする動きがあるらしい。そんなことになったら無投票当選だよ。

サンポウ じゃあやつぱりわたしたち・・・、解散、

ウダイジン 詳しくは今、サダイジンが・・・、ヒサゲさんはどう？

サンポウ (首を振って答える)

ウダイジン そうか・・・。(ナガエがしくしく泣いているので) ナガエさん？

ナガエ あたし、自分の好きな村に外来種が我が物顔ではびこっていることが許せなくて。

ウダイジン・・・ナガエさん。

ナガエ だってヨウキ村は最後の古里だから。それはキョウド町に合併してからも同じです。最後の古里は、
 なんとしても守りぬかなきゃって・・・、

ウダイジン 間違っていないよ、ナガエさん。外来種は在来種に悪影響を及ぼすから・・・、

ナガエ 外来種の繁殖力は・・・、繁殖、・・・(首を振って邪念を追い払い) すごいから。何かの拍子に川に
 でも逃げ出したら大変なことに。

サンポウ そうだよね・・・。

ナガエ 在来種のエサを食べつくして・・・、多くの在来種が、死ぬ。その前に外来種を殺すことは仕方なの
 いことなんです。・・・でもそのせいで、(ヒサゲを見て) 在来種を殺しちゃった・・・、(泣く)

ウダイジン ナガエさん。ヒサゲさんを在来種って言っちゃダメ。

サンポウ まだ死んでないでしょ。

ナガエ でも三ヵ月後には・・・、(泣く)

サンポウ 望みを捨てないでよ。

ナガエ 炭酸水かけましょう！

サンポウ・・・ん？

ナガエ 本で読んだんです。わたしがいつも炭酸で外来種殺すのは意味があるんです。炭酸水に漬かった魚は
 一瞬で呼吸困難になります。一瞬で死んだ魚は一瞬で生き返るんです！ 炭酸水！

サンポウ 落ち着いてよ。

ナガエ 生と死は地続きなんです。

ウダイジン ナガエさん！

ナガエ 輪廻するんです！

ウダイジン ナガエさん！

ナガエ (はっとして)・・・すみません。ちょっと頭冷やしてきます(と席を立つ)

医者が病室に入ってくる。

全員 あ、先生。

先生 (ヒサゲを見て) おやおや、よく寝てるねえ。

ウダイジン ちつとも目覚めません。．．．先生、やっぱり．．．、

サンボウ (それを制して) 望みを捨てないで。(と二人で涙をこらえる)

先生 (ヒサゲを触診しながら、ウダイジンとサンボウに) どうしたの？ 具合でも悪いのかな？ あはは。

ウダイジン ヒサゲさんの、具合は．．．、

先生 この子ねえ、昨日ほとんど寝なかったんだよ。

ウダイジン え？

先生 なんだか、ファンレターに返事を書くんだとか言ってるね。看護婦が止めても聞かないんだ。全員に返事

を書くまでは眠れませんか、いや頑固頑固。こりやまだ半分寝てるかもよ。あははは。(と去る)

サンボウ ．．．え？

ウダイジン 先生！ 本当のことを言ってください！

ナガエが病室に入ってくる。

全員 あ、ナガエさん。

ナガエ 今、先生と、

ウダイジン (首を振り) 大切なことはなにも．．．。なにか隠しているような．．．。

ナガエ (呼びかける) ヒサゲさん、．．．もう帰ってきてくれないの？

サンボウ わたし恥ずかしい！ ．．．(ヒサゲに) ねえ、目を覚ましてよ！ 頼むから！ ねえ、わたしも

頑張るから！ なによあんたばかり頑張ってる、ねえ！ 目を覚ましてよ！ もう一回、もう一回でい

いから．．．、一緒に行進曲歌おうよ、ねえ．．．、ねえって言ってるのよ！ (ヒサゲに覆いかぶさる)

ナガエ (「もしも明日が」を口ずさむ)

続いて、ウダイジンがコーラスで歌に加わる。

続いて、サンボウも歌に加わる。

嗚咽交じりの歌が歌われるなか、

ヒサゲ (うわごとで) 拝啓 初秋の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。この度はご丁寧なフ

アンレターを誠に有難うございました・・・

ナガエ !・・・サンポウさん!

ヒサゲ そのよと涼風の心地よい今日この頃いかがお過ごしですか・・・

サンポウ ヒサゲちゃん! ヒサゲちゃん!

ヒサゲ はっ、(と飛び起き)・・・どうしたの? みんな?

サンポウ・ナガエ・ウダイジン ヒサゲちゃん! (と泣く)

ヒサゲ え? なに? なに?

サンポウ ヒサゲちゃん。ゴメン。わたしを許して。

ヒサゲ 許す?

ナガエ わたしもです。

ヒサゲ え? え? ちょっと落ち着いて。(突然咳き込む)

全員 (口々に) あ・・・

全員哀れんだ目でヒサゲを見るが、

ヒサゲ むせちゃった(と笑う)

ので、いたたまれなくなり、

サンポウ (同時に) ヒサゲちゃん。

ナガエ (同時に) 死なないで。

ウダイジン (同時に) ヒサゲさん。

ヒサゲ・・・今、誰か何か言わなかった?

ナガエ いいえ。

ヒサゲ そう? ごめんね、ちよつと戻るね。・・・むせちゃった(と笑う)

サンポウ (同時に) ヒサゲちゃん。

ナガエ (同時に) 死なないで。

ウダイジン (同時に) ヒサゲさん。

ヒサゲ ナガエちゃん。

ナガエ はい。

ヒサゲ 言った。

ナガエ ・・・言ってますん。

ヒサゲ 死なないでって、

ナガエ いいえ。

ヒサゲ 二回聞いたから。

ナガエ ・・・、

ヒサゲ なにか隠してる？

ナガエ ・・・もしかしたら、いなないてって(言ったような気がする)

ヒサゲ (遮って) 言わない。なんでいななくの？ わたし馬？ じゃあいなないてみようか？ ヒヒー

ン。・・・ほら意味分かんない。・・・もつかいいいなくよ。ヒヒー。・・・ほら、どうしよう？ ヒ

ヒーン、ヒヒー。ねえ、あたし死ぬの？ ねえ、教えてよ。でないといなくよ。ヒヒー、ヒヒー

ン。・・・、

全員 (口々に) ヒサゲちゃん、もう。・・・、いいから。

ヒサゲ ヒヒー、ヒヒー、

サダイジンが病室に入ってくる。

全員 あ、サダイジン。

サダイジン 現職が出馬取り下げた。今日の夕方までに届出がないと、・・・無投票当選だ。

ヒサゲ なに？

ナガエ バリバリさんっていう候補が立候補してて、

ウダイジン 彼が町長になったらご当地アイドル事業は即刻廃止なんだ。

サンポウ カイカクなんだって。

ヒサゲ ・・・廃止？

ウダイジン そう。

ヒサゲ ・・・うまくいかないね。

サダイジン なんとかならないかなあ！

サンポウ あたしいや！

ウダイジン そんなこと言ったって。

サンポウ イヤなものはいやなの！

ヒサゲ ……(サンポウを見る)

サンポウ なによ。

ヒサゲ あたしもイヤ！

ナガエ わたしもです。

ヒサゲ あたしアイドル続けたい。

サンポウ あたしだって続けたい。

ナガエ わたしもです。

三人、手を差し出し円陣のように。

サンポウ ……(二人を見る) なんとかしよう。

ナガエ はい。このまま死んじやうのはあんまりです。

三人、手が下がってしまうが、

サンポウ それは、今、なしで。(再び手を差し出し)

ウダイジン でも、どうするんですか。

サンポウ パパに頼んで助役を出馬させる。

サダイジン え！

ウダイジン そんなの出来るんですか？

サンポウ ……自慢じゃないけどウチはウドでは名士なの。既得権益にまみれてるの。バリバリさんが当選

したら、ウチなんか真っ先に、

ウダイジン ……なるほど。

サンポウ あの人はパパの後ろ盾で今の助役になれたんだから。…みんな、応援して。

ヒサゲ・ナガエ わかった。

ヒサゲ わたし町内会長に頼みこむ。

サンポウ 現金渡そう。(ヒサゲはうなずく)

ナガエ わたし怪文書流す。中傷ビラもまく。

サンポウ よし。2チャンネルも。(ナガエはうなずく)・・・いくよ、

三人 エイエイ、(トキの声を上げようと)

ウダイジン ちよっと待って！

サンポウ なによ。

ウダイジン 姑息だし、罪になるし、

サダイジン 三人官女は官製アイドルですよ。政治に足突っ込んじや、

サンポウ 田舎の選挙なめないで！

ヒサゲ そう！ 勝てばいいのよ。

ナガエ どっちにしろ負けたら解散なんです。

サンポウ やるしかないの。

三人 エイエイオー。ハッ！

歌が始まる。

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

パリコト パナナデ フライ フライ フライ

12 共通の敵が出来たことで三人官女のチームワークは急に良くなるのだが、選挙戦は苦戦を強いられ、とうとう開票の日をむかえる

ウダイジン こうして、キョウド町の助役は退職し、出馬を表明した。

ナガエ・・・中傷ビラは全戸配り終えました。

サンポウ よし。

ヒサゲ サンポウさん、ウド木さん絶対ヤだって聞かない。

サンポウ ウド川さんを使いなさい、お父さんの仲人だから。

ヒサゲ わかった。

ウダイジン 彼女らは水面下で姑息な選挙活動を行いながら、表ではアイドルとして積極的に活動した。

ヒサゲ キョウドの明日を決める、町長選挙。

ナガエ 期日前投票も受付中です。

サンポウ 一票を無駄にしては、

三人 ダメでおじやります。

ウダイジン ハッ！

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

ウダイジン 次のライブの予定が決まりました。

サダイジン 町長選の投票日の夜、新町長を迎えて、町の新たな出発を祝う一大イベントです。

サンポウ 面白いわ。公衆の面前でバリバリさんに一泡吹かせてやる。

ナガエ 気合入れていきましょう。

ヒサゲ エイエイオー

サダイジン ハッ！

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ

サダイジン しかし、財政のムダを徹底的に省くというバリバリさんの打ち出した政策は無党派層の支持を集め、旧来の地盤選挙を続ける助役は苦戦を強いられていた。

サンポウ ねえちよつと聞いた？ バリバリさんの演説。

ヒサゲ え？ 聞いた聞いた。

ナガエ わたしも。腹たちました。

サンポウ ねー。

ヒサゲ 一番前にウド木さんいたよ。拍手してた。

サンポウ えー信じられない。

ヒサゲ 腹立つでしょ。仲人さんの前では適当に合わせてたんだよ。

ナガエ わたし、中学の部活の顧問ラインで説得してみる。

二人 それいい！

サダイジン　しかしながら、強敵への対抗心は、彼女らの一体感をさらに強くしていた。ハッ！

ラメチャンタラ　ギツチョンチョンデ　パイノパイノパイ

ウダイジン　皮肉な話であるが、共通の敵ができて彼女らは一つになったのだ。

サンポウ　（ヒサゲに）ビラの印刷お疲れさま。

ヒサゲ　サンポウさんも疲れてない？

サンポウ　わたしは大丈夫だけど・・・、無理しちゃダメよ。

サダイジン　連日続く選挙戦。昼夜問わない活動に彼女ら、特にヒサゲの体力は限界を迎えようとしていたはずだったが、その頃彼女はなぜかこう感じていた、

ヒサゲ　・・・わたし、死ぬ気がぜんぜんしないな。

ウダイジン　バリバリさんへの怒りが彼女に生きるエネルギーを与えたのだろうか。

サダイジン　はたまた三人のチームワークが彼女の生命力を呼び戻したのか、

ヒサゲ　（三人は円陣を組んで）とにかくあいつが落ちるまでもう少し、

サンポウ　あと一息でバリバリは落選。

ナガエ　そうなら、

ヒサゲ　人生の春、再び、

サンポウ　人生の春、再び、

ナガエ　死ぬ前に、今一度の春を。

サンポウ　ナガエちゃん。

ヒサゲ　死ぬ気しないんだけどなあ。

三人　わたしたちの、人生の春。

サダイジン　ここだけの話であるが、町が選挙に沸く頃、ある二人組がこの町を去った。

円陣が一時崩れ、ニセ外人記者と通訳、欲深いおばあちゃんが現れる。

ニセ外人記者　ボンジュール。

ニセ通訳　こんにちは。さあさあ、おばあちゃんこつちですよ。

欲深いおばあちゃん　これで孫に学習機を買ってやれる。

ニセ通訳 いいねえおばあちゃん。

サダイジン 海外メディアだ。

ウダイジン あ、お前らいつかの・・・。

ニセ外人記者 (なか卯について話している)

ニセ通訳 高利回り、元本完全保証の投資のお話です。

ニセ外人記者 (なか卯について話している)

ニセ通訳 われわれは独自ルートで、あの山の奥深くに天然ガスが産出されるという情報をつかみました。海

外の投資家たちが動き出しています。

サダイジン 本当に？

ニセ外人記者 (なか卯について話している)

ニセ通訳 年利二〇%は絶対に保証されます。一口五〇〇万円から、さあこちらへ。

サダイジン 乗ります！

ウダイジン いつかのニセメディア！

サダイジン え？

ウダイジン こいつらインチキだぞ。

欲深いおばあちゃんは警察官だったらしい。

警察官 お取り込み中悪いね。警察だ。ずいぶん派手に商売やってるみたいじゃないか。

ニセ通訳 わたし達は物好きな海外メディアですよ。

警察官 調べはついてるんだ。こいつはただのなか卯に興味がある外人だ。

ニセ外人記者 ワオ。

ニセ通訳 (訳して) なってこったい。

警察官 言い訳は署で聞こうか。

警察官はニセ通訳たちを連行する。

サダイジン こうして虚言癖の詐欺女となか卯マニアの外人が補導されたことは、選挙のお祭り騒ぎの中で完全にかき消され、ヒサゲがこのことを知ることはなかった。

三人は再び円陣を組む。

ヒサゲ　なんか死ぬ気がしない・・・。

三人　わたしたちの、人生の春。エイエイオー！

ウダイジン　ハッ！

ラメチャンタラ　ギツチョンチョンデ　パイノパイノパイ

パリコト　パナナデ　フライ　フライ　フライ

13　そして選挙は終わり、三人官女のラストコンサート、二人のダイジンが彼女らを追いかける

歌が終わると、三人は円陣のまま止まっている。

ウダイジン　そしてとうとう、選挙は終わった・・・。

サダイジン　町はまた、静けさを取り戻したのであるが、

心臓の音が聞こえる。

ウダイジン　わたしは、消えたアイドルを探す、今となっては町人のウダイジンです。

サダイジン　わたしは、消えたアイドルを探す、かつての村人のサダイジンです。

ウダイジン　その目を境に、サンポウ、ヒサゲ、ナガエは姿を消した。

サダイジン　わたし達は消えた三人を追いかけて、いまだ彼女らに追いつくことは出来ないでいる。

ウダイジン　消えたアイドルのうわさはあちこちで聞いた。

サダイジン　隣の給食室にいたとか、

ウダイジン　都会で自然保護運動のNPOを立ち上げたとか、

サダイジン　北の町でカラオケスナックをやっているとか、

ウダイジン　その全ては、不確かで、あまいで、人によって言ってることが違っていった。

サダイジン　しかし誰しもが口をそろえて言うことは、
ウダイジン　今でもキョウド町が好き、と。
サダイジン　・・・笑っていたそうである。
ウダイジン　ちよつと待っててください。大変です、結果が、結果が分かりました。

三人は立ち止まるが、再びステージへと進む。

ヒサゲ　・・・はじめよう。
ウダイジン　・・・はい。
全員　ハッ！

演奏が始まる。

「キョウド町グローバリズム行進曲」

ラメチャンタラ　ギツチョンチョンデ　パイノパイノパイ
パリコト　パナナデ　フライ　フライ　フライ

ラメチャンタラ　ギツチョンチョンデ　パイノパイノパイ
パリコト　パナナデ　フライ　フライ　フライ

ラメチャンタラ　ギツチョンチョンデ　パイノパイノパイ
パリコト　パナナデ　フライ　フライ　フライ

キョウドが栄えて　いいですね　響け槌音　ものづくり
八百屋　肉屋の　大通り　町人の声はハハ　ワハハ
合併　合併でグローバル　みんなでつながよキョウドの輪
おおきくなるって　いいですね

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

キョウドは自然も いいですね 田んぼ畑も山も川も
町の名産 芋と桃 食べるものみなナチュラルボーン
合併 合併でグローバル みんなで作るよキョウド町
あたらしくなるって いいですね

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

ラメチャンタラ ギツチョンチョンデ パイノパイノパイ
パリコト パナナデ フライ フライ フライ

ウダイジン・・・終わろっか。
サダイジン うん。

登場人物たちがお辞儀をして、

了